



ごあいさつ

鮮やかな新緑が目眩しい季節となりました。皆様におかれましては、ますますご清祥にて「活躍の事と心からお喜び申し上げます。

日頃は、附属桃山中学校同窓会の発展のために、何かとご支援賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、私は、2000年4月15日に開催された同窓会評議員会におきまして、会長に再任され、同窓会創立50周年、そして20世紀から21世紀への記念すべき年に、もう一期務めさせて頂く事になりました。まことに光栄で、身の引き締まる思いが致します。当日選任された理事の皆様や、各期の評議員の皆様と共に、伝統ある同窓会のために、力を尽くして参りたいと考えております。

最初の仕事はこの広報紙「つゆ草」(エコ特集)の発行と、下記の通りの同窓会総会「つゆ草の集い」の開催であります。総会には、原理事と同期の附属桃山小学校出身で、種子島宇宙センター、筑波宇宙センター所長を歴任され、現在宇宙開発事業団招聘研究員の菊山紀彦氏をお迎えし、「守ろう地球、めざそう宇宙」のテーマで「講演頂く事になっております。毛利さんや向井さんなど宇宙飛行士のみならず」と一緒に

仕事をされておられ、興味深いお話しをいっぱいお聞き出来るのではないかと期待しております。他にも楽しい催しを企画しておりますので、暑い時ではあります。皆様奮ってご参加下さい。

私事ですが、先日、京都コンサートホールでの、「日蘭交流400年記念コンサート」に行つて来ました。指揮は、今売り出し中で、ドイツを中心に大活躍中の若手コンダクター、阪哲郎氏(伏見区深草)で、世界的にも珍しいと言われる「エグモント」全曲が演奏され、素晴らしい、至福の時間が持てました。彼は、附属桃山中の第35期生で、奥谷先生にお世話になったとの事。同窓生の皆様にも、ぜひともよろしくとのことでしたので、「披露致します。音楽界における、今後ますますのご活躍を期待しております。

今、附属桃山中学校は、50期、約6000人の素晴らしい同窓生を送り出し、21世紀に向けて新たなスタートを切りました。中学校や同窓会のみならずの発展のために、会員の皆様の引き続く暖かいご支援を、心よりお願い申し上げます。

2000年6月吉日

附属桃山中学校同窓会
会長 岡本 茂樹(12期)



去る3月15日、中学卒業後50年目を迎えた私ども2期生有志は、学校を卒業証書を授与される時生徒一人一人が校長先生に握手を求めたり、中には抱きついたりまた、制服の第2ボタンをちぎって渡す、胸ポケットからの手紙を渡すという様々なパフォーマンスが見受けられました。けれども起立着席の動作や、御辞儀の仕方が実にきちんとなされ、さすがが母校の生徒達よと、頭もしく思い感心もいたしました。

その後恩師の橋本先生、加藤先生、横井先生、小森先生、

(インターネットホームページアドレス)
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/FUZOKU/MOMOCHU/INDEX/homepage.html>



50年ぶりに、ふたたび卒業式へ

2期生 松井 京子

去る3月15日、中学卒業後50年目を迎えた私ども2期生有志は、学校を卒業証書を授与される時生徒一人一人が校長先生に握手を求めたり、中には抱きついたりまた、制服の第2ボタンをちぎって渡す、胸ポケットからの手紙を渡すという様々なパフォーマンスが見受けられました。けれども起立着席の動作や、御辞儀の仕方が実にきちんとなされ、さすがが母校の生徒達よと、頭もしく思い感心もいたしました。

側のご好意で後輩の52期生の卒業式に列席をさせて頂きました。緊張の連続と厳粛さのみを強調した感じの私達の時代の卒業式に比べ、現在の卒業式の明るさと和やかさは時代の流れというものの微笑ましい限りでした。

寺本先生にご出席いただき、2期生30名余りと共に魚三樓で昼食会をもちました。久しぶりに横井先生、小森先生に出席を取って頂き、苦笑顔一杯でハイ、ハイと手を挙げて、50年前を懐かしく思い出していました。恩師の先生方も私共とあいつの間にか年の差が無くなったような感じのお元気で、それぞれマイペースの生活を楽しんでいらつしやるの様子で何より嬉しく思いました。果立ちゆく卒業生に「これから先の永い人生を頑張れよと心を込めた熱い拍手を送ることができた事、懐かしい先生方にお会いできたこと、変わらぬ友情で精はれている同級生に会えたことなど、心豊かな温かい一日を送ることができました。

校歌

作曲 藤井 式雄 作詞 藤井 式雄

一、
千歳の山河 展眺して
桃山の丘陵 照り明る。
われらが 学び舎。
高き 理想
日々に 新に。
燃ゆる 息も 返しく
明日の文化を 担うまで。

二、
樹々の緑に 輝いて
桃山の丘陵 鳴り響む。
われらが 学び舎。
重き 使命。
高く 明るく。
力添えて 神かに
世の福祉を 果たすまで。

附属桃山中学校の環境教育について

〔21期生〕 下村 勉
〔現中学校教諭〕



従来は環境教育といっても各教科が独自に行っていたもので学校としての統一性に欠けるものであった。しかし、新しい学習指導要領の中に、総合的な学習の時間が新設されることを受けて、平成9年度より総合的な学習の時間の1つの柱として環境教育を行うことになった。本校の総合的な学習の特徴として、10・12時間を無学年制の選択学習の時間であるMET(Motivation Explorer

Environment)と呼ばれる時間がある。このMETは、環境系、国際系、福祉・健康系の3つの系に分かれており、その中の環境系では次のようなコースが設定され、生徒が自分の興味に応じて選択できるようにになっている。

年 度	コ ー ス
平成9年度	昆虫、野鳥、土壌、森林、パトロール、音探訪
平成10年度	昆虫、野鳥、土壌、森林、パトロール、音探訪
平成11年度	ビオトープ、森林、パトロール、紙づくり、音探訪

さらに、この生徒選択による環境教育だけでなく、平成10年度からは全生徒を対象とした共通必修としての環境教育も併せて行っている。この一例として、「白保の珊瑚礁と空港建設」という主題で、国語、社会、理科、美術の4教科によるクロスカリキュラムとして行った実践がある。これは、国語での珊瑚礁の美しさを通じた感性にはたらかせた授業から出発し、理科で生物としての珊瑚、食物連鎖や珊瑚礁の価値と破壊につながるオニヒトデの大発生を学習し、社会で新聞記事をもとにした地元の人々の思いを知り、産業振興と自然保護の関係を知り、また国語にもどって、空港建設問題に対する自分の考

えを資料を基にして意見文としてまとめ、最後に美術で今までに学んだこと、感じたことをもとに自分の思いやイメージを絵画で表現するというものである。

このように本校では、環境教育を単に二つの教科の取り組みだけでなく、教科間の連携を通じたもの、さらに自分の興味関心に応じて選択して学習するものと、多様な形態を通じた学習を行うことにより、より充実した学習が行えるように計画している。

太陽電池パネル

平成11年4月に、南校舎(新校舎)屋上に容量10kw相当の太陽電池パネルが設置されました。このパネルは、縦3m、横28mの大きさで、42枚の太陽電池セルからなるモジュールを75枚組み合わせたもので作られています。

発電された電力は、制御装置を通じて、既設の受電盤に接続され、教室等の照明をはじめ、その他校内の機器に電力を供給しています。また、玄関に入つてすぐの事務室前の壁面に表示装置があり、発電電力、発電電力量、日射強度が常時表示されています。



8月12日(土) 第9回 同窓会総会



■プログラム PM4:00～ 講演(菊山 紀彦氏)

(テーマ)守ろう地球。めざそう宇宙。

PM5:00～ 懇親会

■と ころ 京都グランヴィアホテル
(TEL.075-344-8888)

■会 費 社会人/10,000円
大学生/ 6,000円
高校生/ 3,000円

【菊山 紀彦(きくやまとしひこ) 履歴】

- 1940 京都市生まれ、郡立新宮高校をへて横浜国立大学工学部で金属工学を学ぶ
 - 1966 東北大学大学院 金属材料修士課程を終了し、日本原子力研究所入所
 - 1974 科学技術庁の推薦により米国ペンシルバニア大学へ一年間留学
 - 1984 国際原子力機関 (IAEA) 原子炉解体技術専門家に指名
 - 1993 種子島宇宙センター 所長
 - 1995 筑波宇宙センター 所長
 - 1999 宇宙開発事業団 招請研究員
- (著書 「宇宙飛行士になるための本」、「宇宙飛行士になりたい」)

皆様の多数の御参加をお待ちしております。

※出欠の御返事は同封葉書で、6月30日までにお送り下さるようお願いいたします。

添太郎



2期の小川好之さんは、街路樹・公園樹木用添木「添太郎」を考案されました。この添太郎が生み出されたきっかけや、お気持ちについてお聞きすることが出来ました。

皆さんが街の中でよく見かけられる街路樹。この街路樹3mの木を植樹するのに約6m—つまり倍近くの添木がされているのを御存知でしたか？これは、森林伐採

につながらず、添木は2—3年で腐ってしまいます。この防腐剤もまた、人体に悪影響を及ぼすといわれています。そして、最近益々増え続けるゴミ処理問題—大量に廃棄されているプラスチックはダイオキシンを発生させる…。このプラスチック廃材を再利用できないか？—こういった問題に取り組みられた結果、プラスチック廃材を再生して作った添木を考案されたのです。

小川さんがこういった環境問題に取り組まれたのも原点は「自然が好きで山を愛し、四季の移ろいの中で、自然の中で生きていきたい」という気持ちをずっと持っていたからだとおっしゃられます。環境問題といっても様々で幅広いですが、原点は自然や地球を愛する素直な気持ちなのかもしれません。

この添太郎は「これから出来るユニバーサルジャパン、フロ—ラジャパン、高知国体等に使用される可能性が大いにあるそうです。もし、プラスチック添木を見かけられたら「添太郎」と呼んでみて下さい。これからも美しい「水と緑の星」と呼ばれた私たちの地球を一人一人が守っていく気持ちを身近なことから始めてみたいものです。

ソーラーアーケード商店街

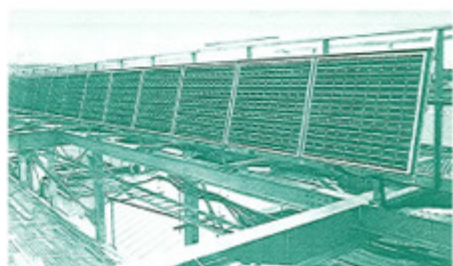


■シーズルー太陽電池の設置状況

伏見にある伏見大手筋商店街は、洛南一の賑わいと歴史を誇る商店街ですが、平成9年に新しくソーラーアーケードを導入し生まれ変わりました。今回、3期の中島さんのご紹介で大手筋の商店街組合の会長をされている中村さんに直接、お話を伺うことが出来ました。ソーラーアーケードは

使われていて総発電量は1時間で最大30kwにもなり、照明や冷房に使われます。余った電力は電力会社に戻すそうです。入口には太陽電池で動くソーラー時計がありアーケードの正面にある「OTE」の文字は、太陽と人とエネルギーを象徴しているそうです。

ソーラーアーケードは全国初ですが、実はこういったアーケードを作るきっかけは、まず冷暖房のある商店街という新しい発想、クリーンエネルギー「太陽エネルギー」を活用しようという考え、また、単に雨風をしのぐだけのものではなく話題を呼ぶために新しいことを…といった観点から生まれたものだそうです。中村さんは環境



■酒坊歩道への設置状況（アーケード上部）

問題と懸がれる前から考えられてたおっしゃいます。完成や着工前に様々な苦勞をされたそうですが、そのかいあって見事完成しました。

アーケードは地域に話題性を提供するばかりでなく、啓発も促したといえます。この初めての試みに全国から多くの商店街や小学校から研修や授業の見学に來られるそうです。また、平成9年度資源エネルギー庁長官賞も受賞されました。

今やすっかり定着した伏見のソーラーアーケード。いろいろな方のご尽力により、明るく、夏も涼しい快適な商店街が生まれ、美しい。エネルギー資源の問題だけでなく、地域にも貢献できる「石二鳥の優れ物」です。

自然と人間の共生？

〈24期生〉 梶田 真章

「自然と人間の共生」というときの自然とは何を意味しているのでしょうか。大きな国語辞典で「自然界」の項を引いてみると、以下の通り、二つの意味が載っています。

イ、人間を含めて、宇宙と地球上のすべてのものが存在する世界。
ロ、人間界と対立し、それととりまく生物・無生物の世界。

ハ、人間・生物を除いた無機的世界。「自然と人間の共生」というときには上記のロの意味で使っているのだと思いますが、果たして人間界の外側に自然界というようなものが存在しているのでしょうか。

私は佛教者ですが、佛教には人間以外のものを一まとめにする言葉はありません。「自然と人間」というときの自然に当たる言葉はないのです。佛教でよく用いられる言葉に、衆生(しゅじょう)がありますが、これは人間を含む全ての生き物、つまり生きとし生けるものを意味しています。私どもは否応なく環境とかかわって生きてゆかねばなりませんし、当り前のことですが、それが生きていくということ、つまり私は、生きるときに最も大切なものは、環境に対して人間として外から何が出来るかではなく、衆生の中の一つのいのちとして、与えられた環境の中で何ができ

るのかという意識を持つことだと思えます。もうそろそろ「自然と人間の共生」という言い方は、やめにしてもよいのではないのでしょうか。「自然」という言葉は常にイの意味で使うように心がける、つまり、人間は自然の一部であるという意識をできるだけ多くの人々が共有することが環境問題の解決につながってゆくと思えます。

生物学は、ヒトとサルに共通の祖先が、ヒトとサクラにも共通の祖先があることを教えてくれます。この知識が習得となつて生かされるときが果たしてやってくるのでしょうか。

わがままな人間の生活様式を変えるためには良心だけに頼らず、エネルギーを使えば使うほど損をするような経済的なしくみを知恵をしばって考えてゆかねばならないと思えます。

旅の仕事を通して

〈45期生〉 桐村 慶二

私はこの春大学を卒業したばかりですが、機会があって学生の頃から旅行の添乗員の仕事をしておりました。私自身が旅行が好きだからというところから始めたものですが、一般的に見た「華やかさ」とはもろもろ異なる



ることも多いのです。とはいっても、この仕事では魅力あること、学ぶことも結構多いものです。いつも全く願ふれの違うお客さんと接し、全く違う環境で仕事をしていく中で、感じることや考えたことなどを少しはかき書いていこうかと思えます。

やはり一番驚くべきことは、年間を通じて旅行の参加者が多いことです。その中でも特に、中高年の方が目立ち、温泉地宿泊で周遊的観光をするタイプのツアーによく参加されています。また、年齢を問わずたくさんの方が参加されるのが、限定のイベントを見物するタイプのツアーです。

そして、お正月やゴールデンウィーク、お盆の「繁忙期」といわれる時期には、非常に様々な方面に、どの内容のツアーにも多くの方が参加されるといった傾向があります。これは実際に、例えばはかばかから「秘境」と呼ばれる観光地に行っても、期間限定のイベント会場や観光地に行っても、ツアーを中心とした人々で埋め尽くされていることからよくわかります。

それにしても、なぜ、こんなにもたくさんの方が旅行をするのか、ということに私は非常に不思議にも思いました。長らく「不況」と呼ばれる時勢ですが、一般的に人々の生活は現在、きつと豊かだからでしょうか。一時期落ち込んだといわれる旅行の参加者の数も、ここ数年では減るどころか増えつつあります。

これらのことを余暇(休日・休暇)という面から解釈してみると、「人々の生活に休みが増えたこと」、「休日の生活を充実させようとする人が増えたこと」が挙げられます。また、この他に、大きく背景にあるのが、「以前よりも安い値段で、手軽に旅行できるように」なったことが挙げられます。

ところで皆様は、普段休日や休暇をどのように過ごされますか。おそらく「休養」というのが一番にあると思えます。そして、「気晴らし」も兼ねて外出される時には、「外食」や、「ドライブ」、「買い物」というのが統計的にも多いのですが、これと負けず劣らず「旅行」をして遊ぶ人はやはり多いようです。「旅行」は一回あたりの出費が他の活動に比べて高いし、また時間のかかるものですが、「休養」と「気晴らし」の両面で人々に効果のある「遊び」ともいわれることが理由の一つにあるでしょう。

このようなことは、私が実際にツアーで見聞したことからも、一とありあえず観光地に行くのが楽しみ、「買い物」するのが楽しみ、「温泉」に浸かるのが楽しみなど人々によって様々ですが、1日もしくは2日の間でもそれぞれの人が非常にその時間を満喫されている様子などから伺えることでもありました。

さて私はこの添乗員の仕事を通して、今までよりも「自分自身が遊び」や「休日の過ごし方」について目を向けるようになりました。これからはいろいろな人々と接していく中で、このようなことをどんどん追求していきたいかと思っております。

〔同窓会役員〕

会長	12期 岡本 慶樹
副会長	7期 中谷 郁夫
理事	14期 竹村 一志
	3期 中島 章
	4期 高石 知見
	8期 原田 悦子
	13期 百々 恵子
	13期 百々 恵子
	13期 藤田 善弘
	15期 船橋 恒夫
	16期 宮門 富子
	19期 森川 順子
	20期 上宮 信子
	21期 市平 晴規
	22期 田村 直樹
	22期 田中真須美
	23期 甲斐 純子
	24期 森田 真司
	24期 上野 浩也
	26期 桑子 泰子
	33期 小林 裕直
	36期 奥島 雅子
	42期 小野 明史
	42期 小野 明史
	45期 桐村 慶二
	2期 松井 京子
	11期 岡本 靖子
	10期 辻子 穂子

〔編集後記〕
初めての理事に初年度の「つゆ草」の編集と担当を任せていただきました。大変な作業でしたが、皆さんの御協力のおかげでようやく発行することができました。ありがとうございました。

環境問題という幅広い難しいテーマを取りあげました。読者の方がいろいろな形で自然とかかわって取りかかってくれます。この号を改めて知り、自ら取りかかってもいい環境となりました。おいそがしい中にも協力ありがとうございました。また、「つゆ草」を長く読んでいただくために「つゆ草」の発行についておたよりをお寄せして下さいます。



42期生 小野 明史
36期生 奥島 雅子